

「将来へのビジョン」を持つための 進路意識啓発に『わくわく』を活用

神奈川県立 厚木清南高等学校

神奈川県立厚木清南高等学校は、全国で初めての、全日制、定時制、通信制の3課程を設置した単位制フレキシブルスクールです。必修科目の他に、さまざまな分野の選択科目があり、生徒は毎年その中から科目を選んで、自分の履修計画を立てます。単位制は、将来についてのビジョンがないと履修科目を選べないシステムであるため、指導のポイントは、まず将来の目標を定めることです。進路選択の一助に『進路適性検査わくわく』をご活用いただいた、1年生担任の東川道子先生に、検査の活用のポイントをお聞きしました。



全日制
キャリア支援グループ
東川 道子先生

—最近の進路状況をお教え下さい。

昨年は3年生約200名の内、進学が約6割、就職が約2割です。進学者の内、約6割が専門学校に進みます。専門学校志望が多いのが本校の特色です。本年度は特に、看護系、服飾系、情報系の学校が人気があります。

—最近の1年生の進路意識についてお教え下さい。

本校は、芸術系科目や情報系科目等の専門科目に特化した勉強ができるため、将来の進路についてかなり具体的な考えを持って入学してくる生徒がいます。その一方で、将来についてのビジョンがないまま高校を選んだという生徒もいるというのが現状です。

—『進路適性検査 わくわく』（以下『わくわく』）は、いつ頃実施されましたか？ また、ご活用の目的は？

『わくわく』は、1年生全員を対象に、5月の「総合的な学習の時間」で実施しました。活用の大きな目的は、まず進路意識を啓発するということです。本校の場合、各学年の履修計画は自分で立てなければなりません。自分で具体的な進路目標（当面のゴール）を決めないと、2年次の計画を立てるのに苦労します。例えば、2年次に科目Aを履修していないと、3年次に科目Bは履修できないというケースも出てきてしまいます。目標

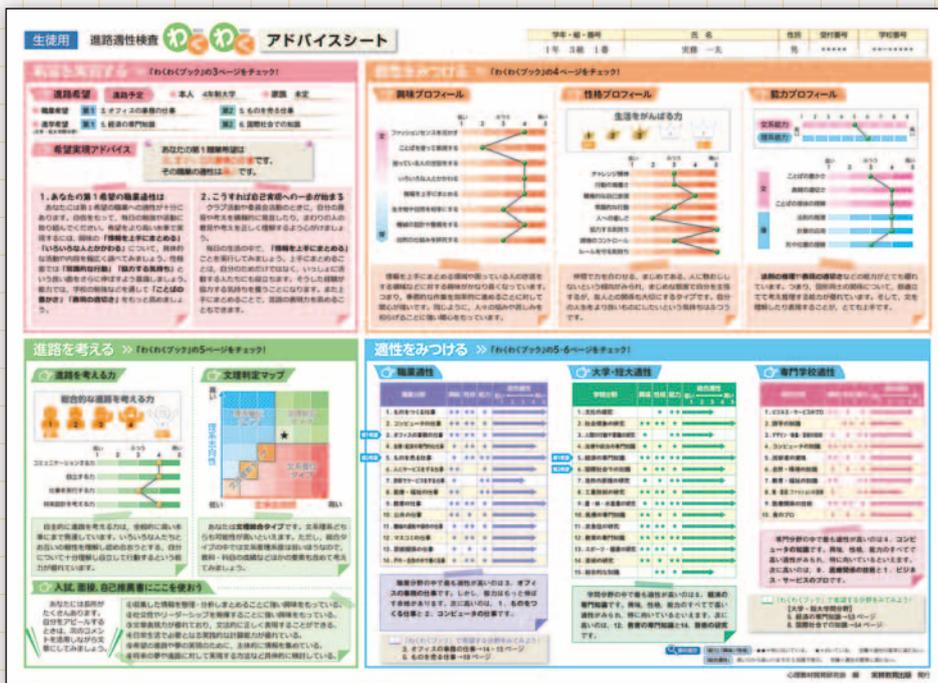
を早く決めないと、後で困ってしまうのです。そうならないために、自分で自分のゴールを見つけられるように、その一助として『わくわく』を活用しました。

—『わくわく』を採択したポイントは何ですか？

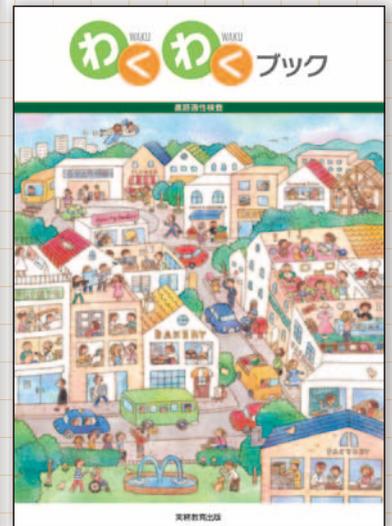
第一に判定シートが見やすいということです。さらに、判定結果の見方や、職業、資格・検定、学部・学科の情報を満載した『わくわくブック』が、進路指導の資料として大変役に立っています。そもそも世の中にどのような職業があるのかわかっていない生徒もおり、また、ある職業に就くためにはどんな資格・能力が必要で、そのためにどこで何を勉強すればよいかまで調べられる点も重宝しています。

—『わくわく』を進路指導にどのように活かされましたか？

「総合的な学習の時間」の中で判定シートを返却し、判定結果を見ながら、各自で『わくわくブック』を使って振り返りを行いました。「ワーク1 『わくわく』の結果を振り返ろう」で、興味が強く判定された特性に関連する職業を探し、「ワーク2 『わくわく』で職業を研究しよう」で、自分のやってみたい職業について、『わくわくブック』の「第2部 職業リサーチ」の中から選び、調べました。自分の「個性」（興味や能力等）や「適



▼わくわくブック(生徒用)



▲『進路適性検査わくわく』(生徒用)アドバイスシート

性」を知った上で職業を探するという流れがありますが、例えば、判定結果で、「自分が思っていた自分と違う」「自分がなりたい職業分野に適性が低かった」と出た時に、初めて生徒は客観的な評価があることを知ります。そこで、もっと頑張らなければという、進路に対する前向きな姿勢が生まれるのです。

一判定結果を返却した際の、生徒の反応はいかがでしたか？

1年次の5月だったので、たとえ自分のやってみたい職業に適性が低いと判定されても、そんなに深刻に受け止めてはいませんでした。意外な結果が出た時には、思わぬところに可能性が広がったなととらえる面もあったようです。また、周囲の生徒に、お互いの判定結果を見せ合って驚いたり、盛り上がったりしていました。他者が自分をどう見ていたのかがわかるとともに、クラスがまとまるきっかけにもなりました。

一その他の進路指導の取組や、課題について教えてください。

本年度の1年次の指導テーマは「職業理解」です。『わくわく』の資料を活用する他は、外部講師を招いた進路講演会を年3回程度実施します。最近の生徒は、進路に対して当事者意識が希薄な点が目立ちます。最後にはなんとかかなるとか、先生が決めてくれるだろうとか考えている生徒がおり、対策に苦慮しています。自分の将来は、日々の生活から自分で考えていかないと

獲得できないということを理解させるために、このような外部機関との連携や情報発信を行うようにしています。また、自分自身を分析し、理解した上で表現するということが苦手な生徒も多いです。さらに、コミュニケーション能力が低い生徒も目立ちます。この先、AOや推薦入試、自己推薦文の記入や面接の自己アピールなど、自分を表現し、他人にうまく伝えなければならない場面は必ずあります。その際に、『わくわく』の判定結果は、生徒はもちろん、教師の推薦文作成にも役立ちます。今回の判定シートや、記入した『わくわくブック』を保管・管理して、3年次に活用できるように考えています。

(2018年9月取材/文責・実務教育出版 三浦俊哉)

▼『わくわくブック』よりワーク1『わくわく』の結果を振り返ろう

▼『わくわくブック』よりワーク2『わくわく』で職業を研究しよう

